

# 演劇ワークショップ： 「スズキ・トレーニング・メソッド」を学ぶ

担当教員名 平野井ちえ子

## 1 コースの概要

日 程	2014年9月10日・11日／12月18日
場 所	芸能花伝舎（9月）／吉祥寺シアター（12月）
参加人数	16名

## 2 コースの目的

世界の演劇人が注目する「スズキ・トレーニング・メソッド」の初歩を体験し、演劇表現のための身体訓練を学ぶ。コミュニケーションに必要な感性や演劇作品に対する鑑賞眼を養う。

## 3 事前学習

(1) 日本の現代劇の流れを講義。(2) ギリシア悲劇『トロイアの女』の一幕と終幕の一部の本読みを体験。(3) 鈴木忠志氏演出『トロイアの女』の舞台映像を一部紹介。(4) 劇団 SCOT と劇団員でワークショップ講師の木山はるか氏について紹介。(5) ワークショップ受講上の注意。(6) 希望者には、ワークショップ終了後も、数回に分けて『トロイアの女』の物語に親しむためのティーチインを行なった。

## 4 行程

### 1日目

スズキ・トレーニング・メソッドの入門として「訓練1」と「訓練2」を学ぶ。「訓練1」は力強く床を踏みしめる足踏みであり、踏んだ震動が上半身に上がるのと闘って重心を一定に保たねばならない。「訓練2」はゆっくりした一定の速度で美しく緊張感のある水平移動を見せる歩行訓練である。いずれも自らの身体の重心を意識し、対象に向かって迷わず前進する訓練であり、一定の速度、一定の呼吸、一定のエネルギーを保たねばならない。「訓練1」は基本動作を、「訓練2」は手の動きをつける前の段階までを、それぞれ学習した。午後には、NHK 訪問インタビューの収録映像である「足踏みがよびおこすもの」で、鈴木忠志氏本人による「スズキ・トレーニング・メソッド」の解説を聴いた。また、舞台映像『ディオニュソス』を第4場（ペンテウス殺し）まで鑑賞し、訓練が舞台にどのように生きているかを

考えた。

### 2日目

「訓練1」と「訓練2」のマスターを目ざす。「足踏み」は音楽の終わりに合わせて一斉に終了することが難しく、繰り返し訓練を受けた。「訓練2」は、足の動きに加え足と等速度の手の動きもつけて行なう。手の動きがつくことで、重心が不安定になりやすいことがわかる。いずれの訓練も単純な動きではあるが、上手になると美しい型になっていく。何度も繰り返すことで、自分の身体の弱点を見つけることができる診断でもある。午後には、NHK 訪問インタビュー「利賀山房・わが劇的空間」で、鈴木忠志氏の劇場についての考えを聴いた。また、舞台映像『四か国語版・リア王』を1幕10場（荒野のリアの冒頭）まで鑑賞し、訓練が舞台にどのように生きているか、新利賀山房の空間がどのような空気を醸し出しているか考えた。

### 3日目

『トロイアの女』の吉祥寺シアター公演の最終舞台稽古見学に参加した。これは、「演劇人のための鈴木教室」のプログラムでもある。本公演と同じ流れで見学でき、鈴木忠志氏の解説やフロアとの質疑応答もあり、本公演以上に実りの多い経験であったことは間違いのない。『トロイアの女』は鈴木氏の初期の作品であるため、スズキ・トレーニング・メソッドが色濃く用いられていて、ワークショップ講師の木山氏も出演していたため、9月に訓練を受けた参加者たちは、真剣なまなざしで舞台に見入っていた。

## 5 事後学習

ワークショップと観劇で得た学びについて、全員の日記とエッセイをシェアしてディスカッションを行なった。観劇だけでは到達できなかったであろう鋭い観察もあり、ワークショップの効果を実感した。



力強いステップの歩行訓練1



静かな迫力の歩行訓練2